

行元寺 寺報 特集号

特別公開「北斎広重展」

通刊41号

千葉県いすみ市荻原2136 ☎0470 (86) 3816

行元寺発行 FAX 同上

文責 市原 淳 田

歓 迎

観光・研修旅行

土・日・祝 個人・一般公開
平日 予約 団体等

10:00~16:00

文化財修復基金 団体300円/個人500円



北斎「神奈川沖浪裏図」
— 房総浮世絵美術館蔵 —

巨大な波の彼方に見える富士、波を下から見上げ、舟を上から見おろす。さらに奔浪する舟を平らな目線で見る。

視点可以自由に移動させて見る動的遠近法、加えて色彩の輝き、それは西洋絵画の流れ、そのものを変えてしまう、「新

西洋絵画「新しき美」の原景

「伊八の波」から北斎「神奈川沖浪裏」



行元寺 伊八「波に宝珠」

しき美」の誕生となった。

北斎のこの名画よりさきに、「波の伊八」の異名を持つ、武志伊八郎信由の浪裏彫刻に、高遠さらに深遠、平遠、の三動的遠近法と、加えて浪間に漂

う宝珠に、ピカソに通じるような手前を小さく、奥を大きくした逆遠近法を見てとれる。北斎の「神奈川沖浪裏」に刺激され、西洋ではじめて怒濤逆巻く浪裏を描いたのがクールベとされ、その影響もあつて近代絵画の父と仰がれるセザンヌの幾何学的構図は、北斎にもつとも類似している。また北斎の浪にみる、しぶきの点描法はモネに影響し、ゴッホはそれを全面踏襲し、西洋絵画に新しい美を放った。

巨匠北斎と広重展

ゴッホ ドガ 等紹介

後援 房総浮世絵美術館

10月8日(休) 11時~2時

「波の伊八」講談会

講談師 神田あおい氏

10月27日(土) 10時~1時

「木彫の実演」

彫師 稲垣祥三氏

初公開 堤等琳「三国志の世界」屏風



文化三年(806)秋、北斎は堤等琳の画を慕って飯縄権現(現いすみ市岬町和泉)を訪れた。ここに堤等琳と波の伊八が長期滞在し、互いに教授し合って天井画と彫刻が生まれた。

北斎「堤等琳の画風を慕う」
『点描法』に『覗き画法』

つみとうりん



千絵の海 「総州銚子」

— 房総浮世絵美術館蔵 —

「千絵の海」は文政末(1829)から天保十一年(1840)北斎の総房旅行にかけて描いたとされる。波を点描法をもつてし、二つの波がダイナミックに交差し、翻弄される小舟の中で漁師が漁をつづけている。

「たかはしのふじ」

江戸小名木川で、この高橋が最も高かった。橋脚の間から股のぞきのように、富士を小さく覗く奇抜さ。

「北斎伝」

文化元年以降に
点描法がみられる

漢画の皴法(しんぽう)に工夫を加え、点描法を案出したのは、堤等琳と考えられている。文化元年(1804)以前の北斎の作品には見られないからである。上掲の堤等琳の「三国志の世界」屏風は今回が初公開でこれは、苔を点描法で表現した点苔描法だが、堤等琳の弟子である等随作になる、行元寺の杉戸絵「老梅と白鷹」にも、点描法が見られる。



たかはしのふじ (房総浮世絵美術館蔵)



等琳「韓信の股ぐり」

北斎の覗き画法

〈写真提供 浅草寺〉

「たかはしのふじ」の作品は本邦には全くといってよいほど遺っていない貴重な一枚である。これがのち富嶽三十六景の「深川万年橋下」に転生するのだが、北斎は多く覗き画法で描いている。富士を桶屋の股の下から覗く「跨ぎの不二」「尾州不二見原」また「遠江山中木挽図」などだが、その典型は「神奈川沖浪裏」図で、浪裏は下から覗いている。これらは堤等琳の得意とした覗き画法にある。

きく 規矩二ツを以て画となす

円と角で作画案出

「北斎伝」

彫刻からヒント?

江戸期の超ロングベストセラーといわれている「北斎漫画」は、門弟に対しての絵手本として描かれた。この漫画という言葉は、北斎が初めて用い、漫筆という用語を自分の画に応用した。



波の伊八 彫刻 (部分)



北斎漫画 初編



この第五編は「規矩準繩」編で、規はぶんまわし今でいうコンパス、矩はさしがね、準は水準器、繩はすみなわで、建築や彫刻用語である。この「規矩準繩」編では、二九枚のうち一六枚が鳥居・寺門・釣鐘・経堂屋根・輪藏・塀で、北斎の主張する「規矩方円術」に満ちている。

こうして北斎は円と角などの幾何の術によって、絵の割出し法を考えた。北斎は若年のころ、ある彫り師のもとで彫刻の修業をして、「楽女格子」一冊のうち未六丁の文字彫りをした経験があった。これが波の伊八等の彫刻に接したことよみがえって、絵に応用したものと考えられる。

富嶽三十六景 三井見世略図



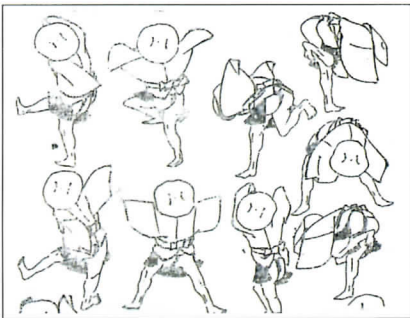
北斎高弟 昇亭北寿
太東崎にいすみ連山
——九十九里地引網大漁獵正写図——

ピカソ・セザンヌに影響 明暗三角形の並列で 幾何学手法を考案

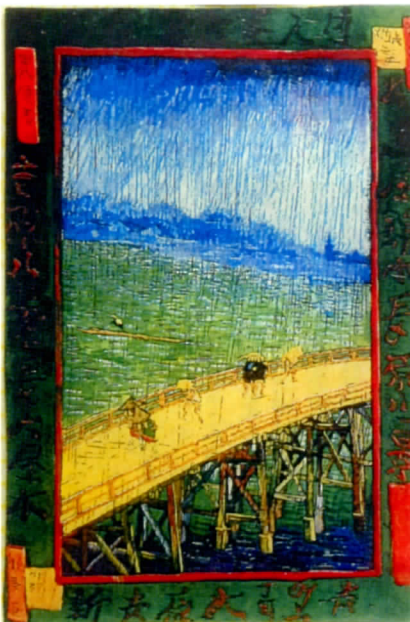
昇亭北寿は北斎の高弟で、九十九里浜の地引網を描いた。左方に見えるのは太東崎で、右方はいすみの連山であろうか。この連山を三角形を多数並列して、重畳たる連山と懸

崖を立体的に表現した。いわば幾何学的手法で、北斎の規矩方円説から出たとされ、ピカソの絵画はこれにヒントを得たという。

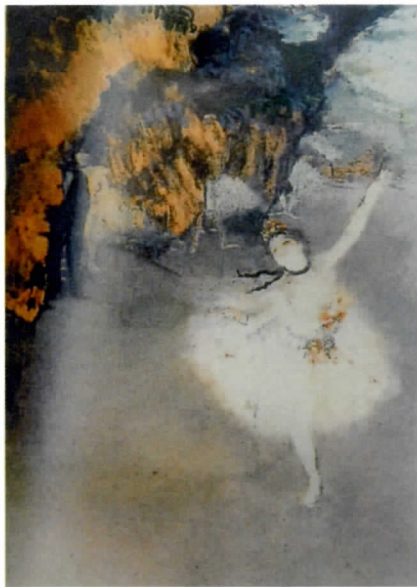
(個人蔵)



左上「北斎漫画」踊り



左ゴッホ広重、雨の大橋模写



ドガ「踊り子」 房総浮世絵美術館 蔵

巨匠 北斎と広重

パリから世界へ衝撃

一九世紀に西欧を怒濤のごとく巻き込んだジャポニズム、なかでも「北斎漫画」

は、北斎が弟子たちに絵の手ほどきのための教科書として描いた絵手本だ。ところが弟子ばかりではなく、一般の人々に親しまれ、その人気はとどまることなく、江戸時代から明治にかけての、ロングベストセラーだった。全十五巻、図版数は約四千点、遠く西洋



(個人蔵)

の画家たちに大きな影響を与えた。
このなかに田舎踊り、雀踊りなど多くの踊り姿が描かれ、躍動感に満ち溢れている。
この踊り姿に倣ったのが「踊り子の画家」といわれるドガである。

雨を線で描く斬新さ ゴッホ広重絵を模写

ゴッホもパリ時代に浮世絵に熱中し、弟テオとともに収集したり展覧会を開いた。

この絵は歌川広重になる「雨の大橋」をトレーシングペーパーでゴッホが模写したもので、「雨を線で描く」といった西洋絵画にない新鮮な表現に、ゴッホはひかれた。原画

にない周囲の「漢字」が装飾的効果を高めている。

特別公開 「桜花弾弦図」 屏風絵

浮世絵の誕生に大きな役割を果たしたといわれる岩佐又兵衛（1578～1650）の特徴があり、又兵衛と何らかの関わりを持った画家が描いたとされる。これと同じ構図の屏風が出光美術館にあるという。

行元寺にて

屏風絵展

一月四日から

公開予定